

平成 29 年度  
「華東師範大学短期語学研修」  
報告書



## 研修参加者

No	所属	学年	氏名
1	人間発達文化学類	2	渡部 真由
2	人間発達文化学類	2	庄子 ありさ
3	人間発達文化学類	2	立石 茉央
4	人間発達文化学類	3	吉成 彩香
5	人間発達文化学類	3	小池 美帆
6	人間発達文化学類	3	有松 千陽
7	行政政策学類	2	加藤 大陸
8	行政政策学類	2	平山 舞花
9	行政政策学類	3	手塚 祐典
10	経済経営学類	2	神原 千明
11	経済経営学類	3	板垣 里紗
12	現代教養コース	2	佐藤 結友
引率	経済経営学類	教授	手代木 有兒

華東師範大学短期語学研修スケジュール

日	月	火	水	木	金	土
8/20 仙台空港集合 15:25 発 C A 156 便にて 上海へ。 バスにて華東 師範大学移動	8/21 A M オリエンテーション プレズメントテスト P M 支払い 華東師範大生との交流	8/22 A M 語学研修 P M ゼビオ上海 ミニインターン	8/23 A M 語学研修 P M ハニーズ訪問 市内観光 夕食会	8/24 A M 語学研修 P M 自由時間	8/25 A M 語学研修 P M 日本旅行視察 県上海事務所訪問	8/26 自由
8/27 自由	8/28 A M 語学研修 P M アクティビティ	8/29 A M 語学研修 P M ゼビオ上海 ミニインターン	8/30 A M 語学研修 P M 自由時間	8/31 A M 語学研修 P M 自由時間	9/1 A M 語学研修 修了証書交付 P M 自由時間	9/2 帰国準備
9/3 バスにて、華東師範大学より空港へ移動 C A 155 便（14:25 着）にて仙台へ、空港解散			8/23（水） 午後訪問等詳細（県上海事務所のご案内により） 13:30～14:00 ハニーズ店舗見学（華東師範大学最寄の店舗） 14:00～15:00 南京東路へ移動（地下鉄） 15:00～16:00 南京東路若しくは外灘散策 16:00～16:30 ハニーズ事務所へ移動 16:30～17:30 ハニーズ事務所訪問 17:30～19:00 夕食会（会費制） 8/28（月） 午後アクティビティ詳細 二胡5名（庄子さん、平山さん、小池さん、立石さん、渡部さん） 書道3名（外部にて、加藤さん、手塚さん、有松さん）			



## 2017 夏・華東師範大学語学研修報告

引率教員 手代木有児（中国語）

2017年8月20日から9月3日まで15日間、中国教員グループと国際交流センターの共同企画として華東師範大学語学研修を実施した。今回は2015年夏に続き2回目である。前回の7名を上回る12名(2年生7名、3年生5名)が参加した。以下はその概要である。

### 1．中国語研修

平日午前2コマ(90分×2)の授業を10日間、計20コマ受講した。授業は留学生の中国語教育に熟練した中国人教員1名が担当し、基本的に教科書に沿って中国語で行われ、レベル、内容、雰囲気いずれも適切だった。学生の報告を読むと当初中国語での授業にとまどったものの、徐々に慣れていったことがうかがえる。また後述のように学生たちは連日のように午後学外で自由行動を行ったが、授業での「中国語漬け」の延長上で街の人々と多少なりとも中国語で交流するという好循環が実現したのは大きな成果だった。

### 2．ミニインターンシップ、企業視察

平日午後はゼビオ上海店でのミニインターンシップ(14:00～17:00、2回)、ハニーズ社、日本旅行社および福島県それぞれの上海事務所の視察(午後、2回)を行った。中国での企業経営の経験や福島県への観光客誘致、県産食品輸入再開への働きかけなど、厳しい現実を含む説明を聞き、学生たちが海外で仕事をすることについて身近に感じる貴重な機会となった。ゼビオでの接客実習は中国語で行い、これも授業との相乗効果があった。日程的に若干ハードな面もあったが、これらは授業とともに学生たちに大きな刺激をあたえた。

### 3．自由行動

上海滞在中、上記2以外の平日午後と土日は自由行動とした。到着3日目に県事務所の方々に案内していただき地下鉄で企業を回って以降、学生たちは地下鉄で自由に上海を動き回るようになった。日曜日にはみな遠出し、華東師範大学に長期留学中の福大生の援助もあり新幹線で蘇州や杭州まで行く者もいた。その疲れで2週目前半は体調を崩す者が数名いたが一両日で回復した。自分の足で上海を歩き回ったことは、医者にかかったことを含め研修中最も意義深い体験となっただろう。詳細は学生たちの報告書を参照されたい。

### 4．その他

国際交流センターとの事前の綿密な連絡調整により、滞在中の華東師範大学国際交流センターの対応は適切なものだった。到着2日目午後には中国人学生との交流会を開いていただ

き、夕飯はグループごとに外出に出るなど、上海の生活に親しむきっかけとなった。宿舎、食堂などの設備は整っており基本的に問題はなく快適だった。なお今回の一人当たりの総経費は、旅行社を使わなかったことで12～13万円程度(但し本学が1人3万円補助)に抑えることができた。

総じて今回の研修は前回の反省を踏まえて綿密な準備の上で実施し、参加者の意識も高かったことにより、予想を上回る大きな成果を上げることができた。そのことは参加者各自の報告書からも十分うかがえる。若干の反省点については改善策を検討し次回に役立てたい。

# 上海華東師範大学短期留学の報告

人間発達文化学類 2年 渡部 真由

## ○目的

私が今回この短期留学プログラムに参加したのは、もともと中国の歴史や文化に関心があり、さらに現地の中国語を聞き、その地域の気風を肌で感じることで、語学力の向上を目指したかったからです。

## ○授業

8/20～9/3の2週間の間、上海の華東師範大学で午前中に中国語の授業を受け、午後や休日の空いた時間で観光を楽しみました。授業は中国人の先生により、ほぼオール中国語で進められ、オーラル形式で自然に単語や文法を習得することが出来ました。中国人の先生は日本に精通していたので、質問や会話など日本語を交えながら楽しくお話することができ、また現地の発音を丁寧に教えていただきました。

## ○県の企業のインターン

午前中の授業のあとは、福島県に関わりのある企業や県の事務局を訪問し、お話を伺う機会がありました。実際に中国で働く上での楽しみや苦労話、海外で働くとはどういうことなのかという、ためになるお話をたくさん聞かせて頂きました。ゼビオでのインターンは『欢迎光临赛标(ゼビオにいらっしゃいませ)』と言って実際に店内で働きました。また、アルバイトのお兄さんと上海の良いところについて会話をしたり、日本語が少し分かる客のおじいさんとも話しました。わずかではありましたが、中国の方とコミュニケーションをとることができてとても良い経験になりました。

## ○生活・文化

午後の研修の無い日と休日には、自分達で計画を立てて観光に行きました。特に上海では文化や社会制度の違いに驚かされることばかりでした。例えば、交通。信号が赤でも右折することができ、歩行者がいようがいまいが、スピードを出して飛ばします。初日から数日は驚いていましたが、すぐに慣れました。また、公共自転車が多く、歩道の至るところにありました。これは設置の無計画が原因で多くなりすぎたそうです。

また、タクシーや食事の支払いなどが携帯1つで出来てしまうネット社会に驚きました。公共自転車もそうですが、生活にかかわることがほぼ携帯で管理されており、日本よりもかなり進んだ情報社会に大変驚かされました。そのため携帯のスリが多いので要注意です！

食事をした店では、バイトの店員が暇なときに携帯を操作しながら接客をすることに文

化の違いを感じましたが、その自由な気風に多少憧れもしました。日本で気を遣いつづけることで精神的に疲れたら、是非中国に行くことをオススメします！自由な世界もあるということが再確認でき、そしてなぜか日本に戻ると自然に相手を思いやることができます！（実体験）

それと、トイレも要注意！トイレトペーパーはもちろん流せず、さらにショッピングモールでもない限り紙は備え付けてありませんので、中国にはティッシュを大量に持っていくことをおすすめします。

#### ○まとめ

実際に中国に行き、文化や空気を肌で感じることで自分の世界が広がりました。中国は日本の隣国で費用も欧米に比べたら安く、日本との共通点も多くある一方で、「こんなに違う文化がある国がすぐ側にあり、違う世界が広がっている」ということを手っ取り早く知ることができます。

お店で全く通じなかった中国語も、日を重ねるごとに通じるようになっていきました。毎日が新鮮でとても充実し、何より楽しかったです。今後は日本で語学をしっかりと習得して、もう一度必ず中国を訪れたいと思っています。

最後にこの研修を成功させるためにご尽力いただいた生協、国際交流センターの皆様、李先生、現地の企業様、研修のメンバー、そして手代木先生に深く感謝申し上げます。

これだけは言わせて下さい。

これから留学をする皆さん、提出期限は絶対に守りましょう！！！！

## 上海研修旅行について

人間発達文化学類 2年 庄子 ありさ



今回の上海での経験は、中国語の上達よりも、中国語を話す姿勢が変わる良い機会となりました。研修前の私の中国語の能力は四声もままならず、覚えている単語は初級の教科書に載っている単語の3割ほどで中級の授業もついて行けないことがありました。また、授業内で中国語を話す際には、間違っていたら怖いという恐怖心もありました。しかし、上海の研修旅行では中国語を話さなければならない状況に置かれるたことで、話すことへの恐怖がなくなり、もっと話したいというように気持ちが変わりました。

日本から出て、日常生活内において中国語を話す場面に置かれなければ、このような変化はなかったと思います。

上海での生活は、中国語で行う語学の授業だけではなく、中国の暮らしを直接体験できる良い機会でした。授業は、四声の違いが分かるようになるのに加え、必要最低限の単語を覚えなければならない状況に置かれたことで、語彙力の向上に繋がりました。それは、授業以外の生活の中で使うこともできました。駅のアナウンスや買い物、道を尋ねるときなど、現地で多くの中国語に触れ合ったことで、自然と身につけることが出来たと思います。加えて、中国語が話される環境で暮らすことで、聞き取る耳も育ったと思われます。四声の違いで、意味が大きく異なることがあるのが中国語です。福島大学の講義だけでは、中国語を聞く機会は限られてしまい、耳を育てることは難しいのではないのでしょうか。今回、中国で過ごして沢山の新しい単語に出会ったことが、もっと知りたいという意欲へ繋がっていったと思います。



日本にはない文化も新しい発見に満ちていました。魚が高級であることや、駅にセキュリティチェックがあること、財布を持たずにスマートフォンのみで支払いをすることなど、驚くことばかりでした。現金を使わずに暮らせるということが、日本よりも進んでいて感動しました。

上海での生活を通して、上記に挙げたような多くのことを学び、身に付けることができました。日本だけの生活では知ることができなかったことや、心境の変化は、直接中国に行くことでしか分からなかったと思います。

# 上海で驚いたこと

人間発達文化学類 3年 吉成 彩香

## 1. 色の特徴

上海でまず最初に驚いたのは右の写真の光景だった。これは河西食堂の光景で赤く光っているのは、食堂のメニューが書かれている。私はこれを初めて見たとき、目がチカチカするなと思うと同時に少し怖いと感じた。なぜなら、日本で赤文字、特に電光掲示板の文字は「緊急」「警告」の時に使われることが多いた



め、日本人は赤文字を見ると、自然と緊張が走る。しかし、上海(中国)では、頻繁に赤文字が使われており、道中の店頭の「欢迎光临」の文字や地下鉄などの交通機関の電光掲示板も、赤文字で表示されていた。中国では、赤文字は「緊急」「警告」という意味より、目立たせるという意味で使われることが多いと思われる。



その他にも、日本と色が違うと感じたものがいくつかあった。一番驚いたのが、救急車のランプだった。一台しか見ておらず、写真も撮れなかったが、それは確かに青色だった。救急車のランプは赤色が当たり前だと思っていた私にとって、その光景は衝撃的だった。ちなみに、右の写真は外灘に停車していた警察の車である。日本のパトカーとのランプは赤一色なので、赤と青の二色が使われているという点で、日本と異なる。

今回はこれしか確認できなかったが、他の色などの使われ方を日本と比較してみるのも面白いだろうと思った。

## 2. 交通事情

上海の道路は、日本とは比べ物にならないくらい大量の自転車が置いてある。右はその光景を撮った写真である。Wechat で誰でも自転車が借りられるため、このような事態になっているらしい。いくつかの自転車には回収



するという旨が書かれたものをつけられていたようだが、道路整備に効果はないようだ。

写真のように、ひどいところは歩道の半分を占領しており、大変邪魔である。自転車が上に重なるように置かれているところもあった。驚いたのは、公衆電話の周りを取り囲むように自転車が置かれていて、いくつかは上に重なっており、とても電話を使えるような状態じゃなかったことだ。今の時代、公衆電話は使わないかもしれないが、緊急の時などすぐに使えないのは良くない。また、交差点付近には、バイクや自転車が通るところにも自転車が置かれ、一列にならなければ通行できなかった。

もう一つ驚いたのは、中国ではクラクションを車、特にバイクが良く使うということである。自動車学校で、「クラクションは緊急時以外あまり使わない方が良く、トラブルの原因になると」習っていたので、クラクションが鳴り響く上海は変わって映った。中国は人口が多いため、日本より事故が多いので、クラクションが頻繁に使われると考える。

### 3. 飲食物の事情

右の写真は寮の自販機で買ったポッキーである。チョコレートの部分が溶けてくっついている。一度、溶けるような温かい場所に置かれてから、また冷やされたと考えられる。飲食物の管理は、日本に比べて劣っていると考えられる。

「全家」日本でいうファミリーマートで驚いたのは、「包子」の種類の多さだった。しかし、帰国当日の朝、いつものように「包子」を買いに行ったとき、「都度」と言われた。おそらく開店時にすべて揃えて、なくなっても補充しないでいるようだ。

右は購買で買った牛乳の表示である。日本では賞味期限が表示されているところに、生産日期が記されている。賞味期限が表示されているものもあるが、必ず上に生産日期が記されている。しかし、賞味期限が記されていない場合、分からないわけではない。右のように、別のところにどれくらい保存できるかが表示されているため、生産日期から計算すれば分かる。これより、中国では賞味期限より生産日期が重要視されていると考える。



## 華東師範大学 短期留学（8/20～9/3） 報告書

人間発達文化学類3年 小池 美帆

私は現在中国語を上級まで受講していますが、中国語はまったくと言ってよいほど話せなかったため、今回の短期留学に参加するかどうか本当に悩みました。しかし、語学力が心配で留学を躊躇している人がいたらぜひ参加してみてください。なぜなら言葉が通じなくてもなんとかなったからです！

今回私たちは上海の華東師範大学に2週間留学してきました。そのなかで印象に残ったことをいくつかご紹介したいと思います。

まずは大学での授業についてです。初日に担任の先生から華東師範大学の概要についての説明を受け、一人一人の中国語力を見るための面談がありました。面談といっても本当に初級レベルの会話で、わからなければすぐに日本語で話してくれるので、和やかな雰囲気で行われます。授業では対話重視でsh、ch、rの発音の仕方や、日本の教科書には載っていない日常表現などを学びました。授業はほとんど中国語で行われますが、「是」の文章から学んだので初級の単位が取れた人ならやっていけると思います。

授業は午前中のみで午後は自由行動や、福島県事務所やXEBIO、ハニーズ、日本旅行に訪問したりしました。上海（中国）で日本の企業がどのように活動しているのか、長年中国に居て感じる中国人の特徴や日本との違いについてなど、ためになる話がたくさん聞けた良い機会でした。

次に華東師範大学の学生との交流会についてです。この交流会に参加した学生のほとんどは日本語学科の学生で、最初にお互い自己紹介をして5、6人のグループに分かれ雑談をしました。交流会は初回授業の後に行われたので、上海でのおすすめスポット、食べておくべき名産品や文化の違い、自分たちの趣味についてなど、自由な雰囲気での交流ができました。交流会のあとは、仲良くなった学生の案内で大学近くのお店へ夕食を食べに行きました。華東師範大学の学生は日本語が上手でフレンドリーなので、中国語が話せなくても仲良くなれると思います（私も華東師範大学の学生とは日本語で会話していました）。

最後に、私が上海に行って感じた中国と日本の違いについてです。日本と比べて上海は...  
食べ物や飲み物が安い！

特に飲み物が安いです。フルーツジュースやタピオカミルクティーのお店が道端にたくさん並んでいて、ひとつ10～20元（150～300円）で買えるのでいろいろな味を楽しめました。

## 暑い！

上海は日本の九州と同じくらい緯度なので、東北と比べて本当に暑いです。そのため、ココナッツやマンゴーの商品をよく見かけました。

## 自転車が多い！

上海の歩道にはたくさんの自転車が駐輪してあります。この自転車はQRコードがついて、それを読み込み、オサイフ携帯で料金を支払うものです。自由に乘ることができ、目的地で決められた場所に置いておけばよいという制度が充実しています。

## 中国人はとてもフレンドリー！

日本語で会話しながら道を歩いていると、全く知らない人から「ニホンジン？」と話しかけられることが多々ありました。大体の人は自分の知っている日本語を話し、満足して去っていきます。中国人同士だと、行列に並んでいる前後の人同士で盛り上がっています。知り合いのように見えてもそこで出会っただけ、ということもよくあるようです。

## とにかく安い！

洋服やブランド物は日本より高いものがありますが、お土産や食料、交通費が本当に安いので、金銭感覚が狂います。(悩んで日本円に換算し、あまりの安さに驚くことも多々ありました。)しかし何をするにも日本より安かったので、金銭の問題で行動が制限されることがなく、いろいろ挑戦することができました。

## 最後に

実際上海に行く前は2週間という長い期間、中国でやっていけるのか不安でいっぱいでした。しかし、実際に行ってみると上海を見て回るのに2週間はあまりにも短く感じました。また、日本では絶対にしないような挑戦も、上海のおおらかな雰囲気の影響されいろいろ挑戦することができました。上海に実際に来たことで、現地の人と関わり、文化の違いを知ることができ、中国に対する今まで抱いていたイメージは大きく変わりました。今回の研修に参加できて本当に良かったと思います。何でも自分の目で確かめるために挑戦してみること、物事の良い面を意識して探すことを意識して、今後の生活を送りたいと思います。

## アドバイス

中国では日本のSNSはほとんど使えないので、中国に行く前に次のアプリをダウンロードすることをお勧めします。

- ・百歩 (google map の中国版のようなもの)
- ・微信 (LINE のようなもの)
- ・Yahoo! (google は中国で使えません)

また、分からない単語を調べるために電子辞書を持っていくと良いと思います。

## 華東師範大学短期語学研修 報告書

人間発達文化学類 3年 有松 千陽

今回、8月20日から9月3日までの2週間、華東師範大学の短期語学研修に参加しました。平日午前には語学研修、平日午後にはミニインターンシップ、県事務所・企業訪問を行いました。企業訪問についてはゼビオ、ハニーズ、日本旅行に訪問させていただきました。平日午後には予定がない時と土日は自由時間だったので各自観光などを行いました。

### 語学研修

平日午前には3時間程度、先生1人と私たち12人で授業を行いました。テキストを使用しながらでしたが、会話を中心とした授業でした。内容は自己紹介など難しくはなかったものの、改めて発音や表現などを学ぶことができました。初日にはあまり一緒に行ったメンバーのことを知らなかったのですが、授業内でお互いに自己紹介し、相手を知ることができ、メンバー同士の交流にもなりました。写真は教室の様子です。



また、華東師範大学の日本語学科の生徒と交流をする時間も設けていただきました。日本のアニメが好きだという話やどんなカリキュラムで勉強をしているかなどを聞きました。現地の同世代の人たちと話をすることは貴重で、楽しい時間を過ごせました。

### 福島県事務所・ミニインターンシップ・企業訪問

福島県事務所の方が2日間私たちと同行してくれました。職員の方には上海市内の案内や地下鉄の乗り方、上海の事情などを教えていただきました。事務所では今の福島がどう見られているのか、どういうPR活動を行っているかを聞きました。私が思っているよりも福島は原発などの影響であまりよく思われていないところがあることに驚き、日本国外で福島をPRする努力をしている方々の頑張りを感じることができました。

ハニーズ・ゼビオは福島県内に本社がある、私にとって身近な企業であり、お話を聞き実際に店舗を見て、日本との違いなどを知ることができました。さらにゼビオでは実際に店舗での接客をさせていただきました。

### 自由時間

平日の午後と土日に自由時間があつたため、メンバーと観光に行きました。大学の最寄り駅から地下鉄を乗りかえ、主要な観光地を見て回りました。土日に新幹線で1時間の杭州に行ったり、外灘に夜景を見に行ったりしました。写真は外灘で撮った夜景です。



福島大学から華東師範大学に1年間交換留学に来ている学生に同行してもらい、新幹線チケットの買い方や案内サポートしてもらいました。お店での注文や値段の交渉などは、中国語を使った会話と、聞き取りの練習にもなりました。正しく聞き取ることができなかつたり、自分の中国語が通じなかつたりとうまくいかないこともありましたが、それも含めて良い経験となりました。

### 全体を通して

中国語初級・中級を受けてからの今回の研修でしたが、実際に行ってみて、語学だけの学習では分からなかつた食文化や日常生活について知ることができました。また、華東師範大学の寮に住み、洗濯や食事の調達などを自分たちで行うという、貴重な経験もできました。授業以外で中国語を使用してみて、自分の実力不足を実感しました。これを機により一層中国語、中国への関心を高め、今後も意欲的に学んでいきたいと思ひます。

# 上海語学研修報告書レポート

行政政策学類 2年 加藤 大陸

今回の上海語学研修において、様々な体験をすることができました。

まず、華東師範大学での語学研修は大変有意義なものでした。講義はオーラルコミュニケーションと中国語での会話が中心になります。講義での自分の中での大きな気づきは中国語を中国語で考える、ということの発見でした。今までは中国語を日本語に変換して会話をしたり、日本語を中国語に変換してコミュニケーションをとる考えでした。しかし、今回中国語で中国語をとらえることで会話がスムーズに進み、より良いコミュニケーションをとることができました。

私は中国文化に関心があり、語学研修中も様々な場所に足を運び、中国や上海の文化、気質等を感じ取ることができるよう努めていましたが、中国の人々の文化や気質は日本のとは全く異なるものであり、それは街並みなどからも察することができました。また、その今の上海の社会が抱えている問題点というものも見えてきました。不動産屋からは地価が高騰している現状が分かり、高層マンションが多く立ち並ぶ一方、スラム街があり所得格差の存在が見て取ることができました。研修以前も中国がこのような問題を抱えているのは知っていましたが、実際にその問題を直視できたのは大きい体験でありました。

また、上海の街並みからは日本の影響を強く感じるすることができました。駅の近くのコンビニはセブンイレブンやファミリーマートが多く、ショッピングモールにはユニクロや日本の居酒屋チェーンが多く出店しており、にぎわっていました。

グローバル化が進む昨今、このように海外の視点から日本をとらえることができたのは大きい体験であったように感じます。特にこれからの福島の海外への情報発信は重要です。



上海の福島県事務所の方の話を伺ったときにも、とても考えさせられました。中国では福島についてのありもしない風評被害が広がっていることや、政争の道具になっている現実を突きつけられ、やるせなさを感じました。また、福島県事務所の努力によって、誘致した中国人の方の偏見や風評被害が拭い去ることができたということが印象深かったです。



今回の語学研修でのもうひとつの気づきは、コミュニケーションは決して言語だけで行うものではないということの発見でした。

研修二週目の月曜日に中国人の書道家の方と書の交流を図ることができました。その方は日本語ができなかったため、終始中国語での交流となりました。自分の語学力に自身はなかったのですが、書道という共有事項があったことで、中国語を介さずとも相手が話したいことが分かり、より良いコミュニケーションをとることができました。

今回、語学研修という名目で中国に来たわけではありますが、コミュニケーションの媒体は必ずしも言語に限らないということが理解できたと思います。また、中国文化に非常に興味があるので、日本風にアレンジされたものではなく、本場の文化を体験できたことは貴重な経験でありました。書道の体験や中華料理、中国風の建築物などをこの目で見ることは、大きいと思います。中国人の感性と呼ばれるものは日本人のそれとはかけ離れており、自分の感性を磨くのに充分でありました。



今回、福島県に進出している企業を視察してみて、日本企業や中国人の対日感情の変化を感じ取ることができました。ゼビオさんやハニーズさんの話を聞いて、現地の中国文化を理解し、売り上げを伸ばす企業戦略を聞いて、難しいと思ったと同時に、これからのグローバル社会の進展の中で避けられない思考であると思いました。また、現在の日中関係については隣国でありながら、お互いがお互いを知らない、ということを感じました。日本と中国、互いがよくない先入観を持っていることは事実であると思います。その点から、日中関係の改善については、更なる人と人との交流が求められると思いました。



# 華東師範大学 中国短期語学研修報告書

行政政策学類 2 年 平山 舞花

8 月 20 日から 9 月 3 日までの約 2 週間、私は、華東師範大学短期語学研修に参加した。

## 1、授業

授業では、留学生向けの教科書を用いた。中国語で問題文等が書かれており、その下に英訳が書いてあるものを使った。先生は主に中国語を使い、複雑な文章は単語を複数連ねて話していたが、中国語で生徒が理解出来なければ英語を使い、それでも理解出来ていないようであったらヒント程度に日本語の単語を散りばめていくという形をとっていた。細かく生徒に質問したり、教科書の例文をクラスメートとペアになって演じたりと、私たち生徒らが発言する機会は多く、実践的な授業であったと感じた。実際、買い物の場面で使う表現や、レストラン等の注文で使うような表現は、休日実際に使った。完璧とはいえないが、ある程度は通じたようだった。

## 2、日本の会社の上海店への訪問

今回の短期研修では、ゼビオ、ハニーズ、日本旅行へ見学、視察に行った。

ゼビオでは、「いらっしゃいませ」等の接客用語を覚え、簡単な作業を手伝わせていただいた。平日で、来客も少ないとはいえ、品出しや陳列の作業をしていると、何人かから話しかけられた。そのようなときには担当の店員を助けに呼ぶことになっていたため、本格的な接客はしなかったが、「申し訳ございません、少々お待ちください。」という言葉伝えるだけでも緊張し、ちゃんと伝わったかが不安だった。対応した相手は理解したようにならずにいたから、伝わったと信じたい。

ハニーズでは店舗を見学した後、事務所に伺って中国での経済や経営、販売の戦略の話聞かせていただいた。店舗の様子は、日本の店舗とあまり変わらないように感じたが、それは私が洋服やファッションに疎いせいかもしれない。その後事務所に移動し、中国と日本のファッションの人気の違い等について話を聞かせていただいたが、店舗を観察しただけでは気が付かなかった。知った今、もう 1 度店舗を観察してみたいと感じた。それよりも、今回話をしてくださった方が私と同じ地元、しかも同じ市で隣町だったことに驚いた。ぜひ地元について一緒に語ってみたい。

ゼビオ、ハニーズでは販売の説明を受けたが、日本旅行では、サービス業の話聞かせていただいた。やはり日本人が求めるサービスと中国人が求めるサービスは違うらしく、

また言葉や文化も違うため、苦勞も多いが、努力が結果につながれば評価される世界でもあり、やりがいがあるとのことだった。

どこの企業でも、中国の特色、日本との違いを見つけ、中国が求めるものを提供しながらも、その企業のスタイルを貫いていることは共通していた。

### 3、休日

土日の休日や、平日の午後、授業がない時間には、上海の様々な場所に観光に出かけた。田子坊や上海書城での買い物や、レストランで食事をしたりと、少ない時間を慣れない中国語を使いながら楽しんだ。自由行動ができる最終日には七宝を訪れて、食事や買い物をした。そこには、中国らしい風景が並んでおり、ただ歩いているだけでも十分に楽しめた。



七宝での写真

今回の研修と、劇団が上海を訪れたタイミングが合い、京劇を観劇することもできた。もちろんすべて中国語で、内容を完全に理解することはできなかったが、軽い身のこなしや鮮やかな衣装は、見ているだけでも興味深かった。ただ、もっと中国語を理解することができたなら、より楽しめただろうとも思った。

2週間という短い時間で、勉強に観光と、良い経験ができた。しかし、楽しんだからこそ、慣れてきたところで帰国という少しの物足りなさも感じた。機会があれば、また上海を訪れて、今回の研修で出来なかったことを経験したい。そのころには、今よりもっと中国語が理解できてればよいなと感じた。

# 華東師範大学での研修について

行政政策学類3年 手塚 祐典

私は、8月20日から9月3日まで、上海の華東師範大学で研修を行った。

## 一、授業について

授業は、平日の午前中に、教科書を用いて行われた。内容としては、中級程度の水準であり、積極的に発音しながら学習した。

## 二、アクティビティについて

私は、アクティビティの中から書道を選択した。書道の先生が上海の郊外に住んでいるため、地下鉄とタクシーに乗り、向かった。書道の先生はとてもフレンドリーな方で、筆の持ち方など、一つ一つ丁寧に教えていただいた。

## 三、企業見学、ミニインターンについて

ハニーズ、日本旅行、福島県上海事務所へ見学に行った。福島県事務所では、中国での福島県のイメージについて教えてもらった。福島県は、原発事故の影響で誰も住んでいないというイメージが、政治利用のため独り歩きしているという話を聞き、悪いイメージの払拭はかなり困難であるということを知った。

ミニインターンでは、ゼビオの店員になり、接客をした。途中でお客から話しかけられたが、聞き取ることができなかった。また、設置されているコーナーを見ると、中国で人気のスポーツは、バスケットボール、サッカー、卓球などであると思われる。

## 四、自由時間について

予定の無い日は基本的に自由時間となるため、観光地などへ行くことが多かった。私は豫園や七宝、杭州などへ出かけた。移動には、主に地下鉄を使ったが、上海の地下鉄では、改札を通る前に荷物検査が行われていた。

## その他気が付いたこと

- ・お金の支払いは、現金ではなくカードやスマートフォンのアプリなどを使用する人が多かった。また、物価が想像よりも安くて驚いた。
- ・有料の貸自転車が多く道路に並べられていた。



授業中の様子



ゼビオでのインターン



自由時間に訪れた外灘の夜景

# 華東師範大学研修レポート

経済経営学類 3年 神原 千明

語学研修は 90 分×2 コマ×10 日間行われ、その他にも、ゼビオ上海支店でのインターンシップ、Honeys、日本旅行訪問に加え、個人的に日本のベーグル店「Macou's 茉谷」の上海支店を見学しに行った。自由行動の時間では、様々な人と出会い、交流して学ぶことがたくさんあった。特に印象に残っていることは3つある。1つ目は、日系企業の多さや日本人が多い事、2つ目は、食文化について、3つ目は中国人が日本や福島に対して抱いていることについてである。

まず、日系企業が多いと感じたのには日本語表記の飲食店の看板を多く目撃したからだ。中には、お店を日本人が経営しているところもあった。観光地に行ったときには、日本人の大学生や仕事で日本から上海に移ったというグループに出会った。職業もバラバラで、多くの日本の企業が中国に進出していること、日本人が多く住んでいることを感じた。

自由行動時間に話しかけた方が偶然中国の Macou's と、日本店舗の社長であったことから、日系企業の多さをより身近に感じることができた。その方達の話聞いて、中国の近年の経済や日系企業として中国で展開する難しさについて学ぶことがあった。中国の経済成長によって、日本企業が中国に進出しやすくなっているということや、中国ではあまり浸透していないベーグルを武器に、ベーグル店 Macou's を中国に進出させたことを知り、中国の市場に介入しやすくなっているということがよくわかった。また、新しく展開するベーグル界ならではの苦労を聞いた。日本人社長によると、最初にベーグルを中国で作らせたから、全く違うものが出来ていたという話を伺い、国外に新店舗を構えることの難しさを知った。その日、日本人社長が上海に来ていたのも、ベーグルの作り方を指導するためで、日本から中国に展開していくこと、それを維持していくことの難しさが伝わった。

ゼビオや Honeys、日本旅行に会社訪問したときにも、日本人と中国人の考え方が違うことを聞いていたため、日本人と同じような肌の色、顔立ち、髪色、宗教だからといって、日本人が考える意見を通すのは間違いであり、お互いの考え方を尊重しあうことが、



グローバル社会には求められていることをたくさんの方に教わった。これらのことは、日系企業が多い事や展開していくことの大変さを感じたきっかけとなった。

次に、食文化の違いについて感じたことをまとめる。

上海の料理は、日本と比べると味が濃く、中国の他の地域と比べると甘い料理が多い。全体的に日本人の口に合う味付けだと思った。担担麺は、はじめは辛さが強いが、後味はココナツの甘さが残り



てもおいしかったし、大学内にある食堂には、辛い味付けのものがたくさんあったが、そのわきには、ピーナツのような豆がたくさん入っており、味のバランスが取れていたためおいしかった。現地の大学生からザリガニを勧められたが、日本ではザリガニを食べる習慣がないので驚いた。ザリガニはピリ辛に調理されており、食感はエビと変わらなかったが、殻が固いので食べるのに苦労した。名前を忘れたけれど、米で作られた麺のようなものや、こんにやくに似たようなもの、カエルの肉や火鍋など様々な現地の食事を2週間味わったが、どれもおいしくて滞在中食事には困らなかった。

最後に、中国人が日本や福島に対して抱いていることをまとめる。

滞在中私は中国の方に日本や福島のことを聞いてみた。日本については、どの人もにこやかな表情で良く評価してくれた。しかし、福島について質問すると、表情が固くなって良い評価はなかった。原因は、原子力発電所事故にある。

中国国内では、メディアがおおげさに報道しており、福島には人が住めない、福島に行くと死ぬといった報道がされていたことを現地で知った。3月11日が近づくと当時の事故映像が流れ、福島へのツアー企画も予約者がキャンセルしていく状況にある。震災前



と比べると、飛行機の便は激減し、福島物は輸入されていない。知り合った中国人の社長にも、「日本を訪れることはよくあるが、福島は危険で怖いから行きたくない」とはっきり言われた。

このように、福島の評価は悪い。私は新潟出身で、新潟を知っているかどうか聞いても知名度はほとんど無かったが、福島の知名度は高かった。震災がきっかけで福島の悪い印象が強くなっている現状を知ってとても悲しくなった。福島も良い評価されるようにまだまだ努力する必要があると感じた。

研修に行ってみて、多くの方と交流し学んだことがたくさんあった。中国の現状を学ぶことが出来、今後役に立ていきたいと感じた。また、これからの経済も中国に注目して新しい発見ができればいいと思う。

## 華東師範大学での語学研修に参加して

経済経営学類 3年 板垣 里紗

今回二週間の語学研修に参加して、上海で生活するという経験をできたことがとても印象に残っています。

中国語の授業では、中国語でのあいさつや自己紹介といった基本的なことから、レストランでの注文の仕方、買い物のに使う言葉なども習いました。それを授業後、いざ、実践！できる環境で二週間過ごせたことが、とても中国語の勉強になりました。朝ご飯を買うのも、お昼ご飯を買うのも、夕食に行くのも中国語でといった環境が、新鮮で楽しかったことを覚えています。

上海は都会でありながら、昔ながらの建物が残る場所やイギリス租界やフランス租界といった異国情緒のあふれる様々な雰囲気混在していて、飽きることがないところです。地下鉄を使えば、ほぼどこにでも行くことができ、タクシー料金も日本に比べればとても安いので、とても便利でした。

また、IT化がとても進んでいて、スマートフォンひとつですべてが事足りてしまうことに驚きました。お店ではスマートフォンのアプリの WeChat やアリペイを使えば現金を持っていなくても買い物ができ、財布を持ち歩く必要がないというのは衝撃的でした。

日本ではなかなか食べることがない中国料理をたくさん食べることができたのも良い経験になりました。私たちのクラスを担当してくださった先生と、中国東北地方の東北料理を食べに行ったり、交流会で出会った華東師範大学の学生の皆さんが、広東料理のお店に連れて行ってくれたり、初めての味で口に合わないものもありましたが、いい経験でした。一番印象的だったのは火鍋です。とても辛いのですがクセになる辛さで、日本ではなかなか食べる機会がないので、また上海に行って食べたいと思っています。

二週間という短い期間ではありましたが、寮に泊まり食事、洗濯、買い物なども自分たちで行うという経験は、授業だけでは学ぶことができない多くのことを得ることができたと感じています。中国語の学習だけでなく、中国での生活を体験したいと思っている方はぜひこの研修に参加してほしいと思います。

私自身、魅力あふれる上海にまた行こうと思っています。そして二週間では体験できなかったことや、行くことができなかった場所に行きたいと思っています。また行きたい！そんな風に思える経験を華東師範大学で、上海で皆さんにもしてほしいです。

## 華東師範大学での語学研修に参加して

現代教養コース2年 佐藤 結友

今回の短期留学に、夜間主からの参加は私一人でした。昼間の学生との交流が全くと言っていいほどなかったのが、酷な状況からのスタートで最初は帰りたいたとさえ思っていました。次の日、隣に座った学生がサークルの中に夜間主の子がいると話しかけてくれて、仲良くなりました。三日目以降は、自由時間のほとんどを彼女と二人で過ごしました。

ご飯を頼むことができず、初めて貧血で倒れたりもしました！でも、そんな心配がなくなるほどに、言語は短期間でも上達するものです。レストランでのオーダーから、会計までを問題なくこなせるくらいにはなりました。



ガイドブックと上海地下鉄路線図

自由時間には、福島県上海事務所の方にいただいた、「イヤーブック上海 MAP&ガイド 2017年版」という冊子だけを頼りに、地下鉄を乗り継いで、遊びまわりました。東京の路線よりも複雑だと現地の方は言いましたが、2週間もいれば慣れます。(おかげさまで、一度終電を逃しました...夜遊びには注意！！)

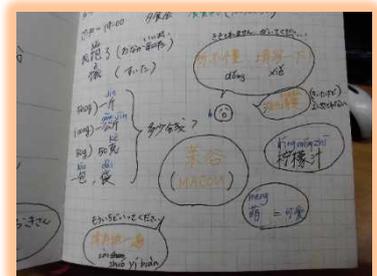
もちろん、迷子にもなりました！でも、迷子になったおかげで、長崎大学経済学部の方々と知り合いになりました。一緒に、上海タワーに上ったり、動物園に行ったりできて、日本人の友達も増えました。

また、現地の人に、授業で学習したことで積極的に話しかけたり、分からない読み方を訪ねていたおかげで、

友達もできました。ヤンさんというベーグル会社の社長さんです。ヤンさんは私たちに正しい発音を指導してくれました。中国でチャレンジしてみたかったザリガニを食べに連れて行ってくれました。会社を立ち上げたばかりで人手が足りないから、中国で就職したくなったら連絡してね、とも言われました。翻訳機能を使った文が成り立っているか、中国版 LINE「Wechat」でやり取りを繰り返しながらいろいろ教えて頂きました。

「言語の上達には現地の恋人」とよくいいますが、これは間違っていないと思います。先生が恋人になるわけですからね！

ヤンさんは恋人ではありません。あくまで私たちの先生です。



メモとペンは必須！



私はもともと、父が中国に単身赴任していたことをきっかけに、中国語を選択しました。そしていつか父に会いにいきたくて思っていました。今回の留学で父に会いに行こうと思っていることを伝えると、来るなといわれてしまい悲しくなりましたが、今思えば、行かなくて良かったと思います。もし、父に会いに行っていたら、私は友達もできていないだろうし、観光にも行けていないと思います

私は、宿舎代なども含めて、持ってきたお金をきれいさっぱり使いました。一年生の冬からこの二週間のためにバイト代を貯めてきました。豪遊できるほどのお金はありませんでしたが、とても充実した二週間を過ごすことができました。お土産でおすすめなものは、現地の方に聞くのが一番です。私からは、スーパーに一度は足を運ぶべきということだけアドバイスしておきます。

最終日の最後の最後まで、夜遊びをしていた私がいえることではありませんが、帰国後の予定を考えて行動しないと絶対に体調を崩します。

帰国した次の日から、集中講義を受けましたが旅の高揚感は抜けませんし、アルバイトという現実にも戻る気が起きません。習い事の大会へも、風邪をひいた状態に出ることになりました。楽しむことと、無謀は違うということを学習するいい機会にもなりました。



もし、今お金ではない理由で留学をためらっているひとがいたら、絶対行った方が良くと思います！ 学生という特権を振りかざすことができる最後のチャンスですよ！



